さんけん新聞

発　行
ＮＰＯ法人
三段峡―太田川
流域研究会
（代表・本宮炎）

〒731－3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木 1734
☎090・
3421・3046

特別保護地区シンポジウム

環境省 自然公園法の要点解説
広大さんけん部 植物の魅力を発表

「景観の国宝三段峡みんなで守る特別保護地区シンポジウム」が四月十六日、四十人が参加して三段峡ホテルで開かれた。「国定公園特別保護地区について」と「三段峡植物について」の二部構成。日本自然保護助成基金事業で、さんけんの主催。

前半は環境省中国四国地方環境事務所広島事務所の長瀬拓自然保護官が、国定公園の根拠法である自然公園法と二〇二一年に一部改正された要点を解説した。

後半は広大さんけん部の大崎壮巳君ら三人が、三段峡の植物の魅力や同部のこれまでの取り組み、博物展示、WEB図鑑による発信について発表した。

シンポジウムは三段峡など国定公園内で跡を絶たない植物の盗掘に警鐘を鳴らし、自然資源を保護する文化の醸成が狙い。さんけんは昨年、植物愛好家を中心に「さんけん植物部」を立ち上げ、峡内の調査やパトロールをしている。

講演要旨は五月下旬発行予定のさんけん新聞特集号で紹介する。

40人が参加して開かれた「みんなで守る特別保護地区シンポジウム」

無印良品開店イベント「つながる市」

都市住民へさんけん活動紹介

広島市西区にリニューアルオープンした商業施設「アルパーク西棟」の無印良品アルパーク店で四月二十二日から三日間開かれた、開店イベント「つながる市」へ安芸太田町から五事業者が協賛。町内の特産品などを販売した。

さんけんは前日のプレオープンから出展し、本宮炎理事長、松尾俊孝理事、本宮宏美事務局長が自然体験など、さんけんの取り組みを説明した。本宮理事長は「都市住民と接する機会は貴重」と手応えを感じていた。

店内には旧松原小学校の廃材を利用したオブジェが展示され、同社と同町との連携が紹介されている。協賛した他の事業者は地域商社あきおおた、環（めぐり）、みあくと、フォレマ。

日本茶 cafe 新緑満喫

新緑が見頃になった5月1日、鹿児島県産の新茶を使用した「日本茶cafe」を女夫淵で開いた＝**写真**。観光客ら約60人が思いがけないサービスで煎茶や抹茶の香りと味を楽しんだ。水は茶に適した三段峡ホテルの超軟水、新茶提供と運営では宇治園製茶(尾道市)の協力を得た。小野誉里子理事と本宮宏美事務局長が和服姿で和ませた。

一口メモ

▼背後から

コロナ禍三年目のゴールデンウイーク、観光客は回復傾向にある。正面口からは石樋までしか行けないが、水梨口―黒淵間が開通した。正面口コースに比べればマイナーだが、大迫力の絶壁・耶源をはじめ王城、南峰橋、蛇杉橋、雌滝、雄滝、仏岩などが楽しめる。この機会に背後から黒淵を訪ねるのもお薦め。黒淵荘も渡舟も再開している。

ヤマセミの人工巣箱設置

巣穴の適地が減少し、太田川流域で絶滅が心配されているヤマセミの人工巣箱を四月十五日、さんけん会員の上野吉雄さんが指導して、柴木川沿いの三段峡ホテル駐車場に設置した。

崖に巣穴を掘るヤマセミの習性に合わせ、巣箱は合板の壁と粘土質の土を詰めた木箱を組み合わせた。上野さんの高校の同級生で三段峡の駐車場を管理する河野良久さんが作成した。今後、設置個所を増やし、保全技術を研究する予定だ。安芸太田町内では最近、巣穴が確認されていない。

探勝路整備

「流川さんけん部」も

春の観光シーズンに入った四月十二日、十七日、二十五日の三日間、延べ四十五人が参加して探勝路の土砂や落ち葉を撤去した。

さんけんが担当した餅ノ木口―聖湖間には、会員から誘われた人ら三十人が参加。五月一日開催の「日本茶cafe」を前にした二十五日には、三十代までの通称「流川さんけん部」の八人が、正面口―女夫淵間を丹念に清掃した。

東京

三段峡PR 橡餅つき盛況

全国の印刷業界の若手経営者で構成するPrintNextが主催するイベント「ココカラ市場」が四月二十九日、東京で開かれ、中国地区はさんけんが協力して三段峡ブースを出展した。

さんけんからはイベントの実行委員でもある瀬尾淳副理事長、本宮宏美事務局長、大倉啓司さん、本宮芳太郎君が参加。来場者が体験した橡餅つきが盛況。三段峡の生き物などを紹介、本宮君の動画「ミスターフィッシュ」などをPRした。

子供達へ餅の丸め方を教える
本宮宏美事務局長（中央）

三段峡の鳥たち⑥

オオルリ

澄んだ声 日本三鳴鳥

全長約十六㌢、スズメくらいの小鳥である。オスの背中が瑠璃色で美しく、名前の由来になった。羽の青は色素ではなく、青色の光を反射する構造になっているため発現する。

オスは「ピーリーリイ、ピーリーリイ」と澄んだ声でさえずり、ウグイス、コマドリとともに「日本三鳴鳥」と言われる。名前も衣装も歌声も、いい格好をするオスの独り舞台だ。

メスは崖の窪みに椀形の巣を造り、コケや地衣類の仮根などを敷き詰める。巣造りと抱卵はメスだけが担う。オスとは対照的に地味な褐色は抱卵時、外敵に見つかり難くするためだ。ヒナへの給餌にはオスが加わり、共同作業となる。

恵まれた生息環境 三段峡の代表格

枯れ木の先などで見張り、飛んでいる昆虫を素早く捕らえると、しばしば元の枝へ戻る。フライキャッチング法と呼ばれ、英名のBluewhite Flycatchuerはこの習性から付けられた。

三段峡にはカゲロウやカワゲラ、トビゲラといった水生昆虫や鱗翅類など、餌となる昆虫が多く生息し、営巣に適した崖も広く分布していて、生息環境に恵まれている。三段峡を代表する野鳥と言っても過言ではない。

夏鳥として全国の渓流沿いの森林に渡来して繁殖する。八月下旬から九月下旬にかけて、越冬地の東南アジアへ渡る。（上野吉雄）